



みどりの風

平成26年10月31日発行
校報 第513号
〔みどりの風 第56号〕
練馬区立関町北小学校

「ありがとう」の心

校長 大野 泰弘

次の歌は、20年程前、私が6年生の担任をしていて、卒業式の練習を子どもたちと始めたころに出会った歌です。今では、劇団：四季の「魔法を捨てたマジョリン」の挿入歌として、とてもよく知られています。

ありがとう

だれかのやさしいところで しあわせになれたとき
こころをこめていおうよ ありがとう
あふれるなみだがよるこびに かがやくそのときは
そっとささやいてみよう ありがとう
たいせつなあいのことば いつまでも たえることなく
ときには ことばにならない ありがとう
こころのなかで わすれずにいおう ありがとう

当時の学級には、ご両親が聴覚障害者の児童が在籍していました。ある日、その子の友達が、私に話しかけてきました。「先生、卒業式の日、 さんのおうちの人には、みんなの歌も言葉も聞こえないんじゃないかな？ みんなでできることを何かしようよ。」

私は、学級の児童の中からそのような声が上がったことで嬉しくなり、早速、子どもたちだけでなく、校長先生をはじめ、隣のクラスや音楽の先生とできることについて話し合いました。結果として、上記の歌を80名ほどの児童全員が手話で覚えることになりました。卒業式当日、その子の保護者の方の前で、6年生全員が手話をつけて歌い、自分たちの思いを伝えることができました。今でも、その子の保護者の方が、卒業式の後、お帰りになるときに、涙ながらに手話で「ありがとう」とおっしゃってくださったことは忘れられない思い出となって、私の心に残っています。

ところで、本校は、明日、11月1日をもって、昭和33年に石神井西小学校の分校となってから、数えて、57年目を迎えることとなります。去る10月15日には、多くのご来賓の皆様のご臨席のもとに、「開校55周年記念集会」を開催することができました。その場で、学校・地域・保護者を代表して、前校長 井上 廣美 様、関町北4・5丁目町会長 鳥羽 貞夫 様(当日は代理で佐藤 和子 様)、現PTA会長 根本 美也子 様にお話をいただきました。3人の方のお話を伺いながら、子どもたちには、あらためて本校開校当時にご尽力された皆様をはじめ、その後の本校の成長を温かく見守ってくださっている多くの皆様への感謝の気持ちをもつと同時に、関町北小学校の一員、この地域に住む一人としての誇りや自覚をもち続けてほしいと思いました。

その子どもたちが感じてくれたであろう「ありがとうの心」を皆様に伝えるべく、記念集会が終わるやいなや、各学年では、11月7日と8日に開催する「学習発表会」に向けての練習に熱心に取り組んでいます。ちなみに、6年生は劇団四季のミュージカル「エルコスの祈り」にチャレンジしています。

「言葉とは、心の思いを響かせて、声に顕すをいうなり」という言葉がありますが、上辺の言葉ではない、真心からの言葉を、子どもたち一人一人が演じたり、奏でたりすることを通して、聞き手の皆様の心にお届けできると思います。

今月はまた、今年度の第2回：ふれあい月間でもあります。人の心と心をつなぐ大切な言葉の一つが「ありがとう」でしょう。子どもたちには、23日の勤労感謝の日だけでなく、一年中を通して、周りの人々への感謝、「ありがとうの心」を大切にしながら、学校や家庭、地域の中で豊かな生活を創造して欲しいと願っています。